

## <概要>

平成7（1995）年度に、法律に基づき報告されたトラブルの件数は14で、いずれのトラブルも、[原子力発電所](#)の周辺環境への[放射能](#)の影響はなかった。

## <更新年月>

1997年03月 （本データは原則として更新対象外とします。）

## <本文>

1995年度に電気事業法及び[原子炉等規制法](#)に基づき、電気事業者から通商産業大臣（現経済産業大臣）に報告されたトラブルの件数は、14件であった。14件の内訳は、運転中（試運転中及び調整運転中を含む）に自動停止したもの1件、手動停止したもの9件、原子炉停止中に発見されたもの4件となっている。なお、いずれの事象についても、原子力発電所の周辺環境への放射能の影響はなかった。

これら法律対象として報告されたトラブルの概要を [表 1-1](#) 及び [表 1-2](#) に示す。表中の第4欄の「国際評価尺度」は、「[国際原子力事象評価尺度（INES）](#)」とも言い、難解な原子力発電所の事象を専門家も一般の人々も共通して理解できるように、国際原子力機関（IAEA）と経済協力開発機関（OECD/NEA）によって策定された尺度である。この評価尺度は、（1）[放射性物質](#)の発電所外への影響、（2）放射性物質の発電所内への影響、（3）発電所の安全保の機能の劣化、の3つを基準にして、レベル0から7までに分けられている。通商産業省（現経済産業省）は、1992年8月からこの国際評価尺度を採用している。日本でのトラブルは、ほとんどがレベル0になるので、このレベルを安全に影響を与え得る事象レベル0+（プラス）と安全に関係し得る事象レベル0-（マイナス）に分けている。

## <関連タイトル>

[日本の原子力発電所における事故・故障・トラブルの推移（2005年度まで）（02-07-01-01）](#)

[日本におけるBWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）（02-07-01-02）](#)

[日本におけるPWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）（02-07-01-03）](#)

[原子力施設の故障・トラブル・事故の国際評価尺度（11-01-04-01）](#)

[平成7年度試験研究炉における事故・故障（12-03-01-16）](#)

[平成7年度～平成9年度放射性同位元素等取扱施設における事故・故障（12-06-01-16）](#)

## <参考文献>

（1）科学技術省原子力安全局（編）：原子力安全委員会月報、Vol.19, No.4, p.15-16、大蔵省印刷局（1996）

（2）（財）原子力発電機構 安全情報研究センター：平成7年度のわが国の原子力発電所におけるトラブルについて、p.7-8（平成8年9月）

表1-1 1995年度原子力発電所におけるトラブルの概要(法律対象)(1/2)

発生年月日	発電所名	概要	国際評価 尺度
95. 5. 12	関西電力(株) 美浜発電所3号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板拡管部、管板拡管境界部及び管支持板部に有意な指示を発見。	0-
95. 5. 12	関西電力(株) 大飯発電所2号機	蒸気発生器伝熱管の漏えいのため停止中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板拡管部、管板拡管境界部及び低温側のU字管部に有意な指示を発見。	0-
95. 5. 29	四国電力(株) 伊方発電所1号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、高温側の管板拡管部に有意な指示を発見。	0-
95. 7. 13	東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電 所5号機	定格出力にて調整運転中、タービンバイパス弁の電気油圧式制御装置から油の漏えいが発生したため、原子炉を手動停止。 原因は、当該弁用の制御油蓄圧槽と配管を接続しているフランジ部の取り付け不良によってパッキン(オリング)が損傷したため。	0-
95. 10. 13	関西電力(株) 美浜発電所3号機	定格出力にて運転中、原子炉格納容器サンプに流入するドレン流量に増加傾向が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、原子炉水位計ハウジングのキャンピースील部に、製作段階で腐食が発生していたことにより、その後のプラント起動時等の水質環境下で、腐食が進展し、当該部が損傷に至ったため。	0-
95. 10. 24	日本原子力発電(株) 東海発電所	出力14.4万キロワットで調整運転中、制御棒1本が炉内に挿入され出力が低下したため、原子炉を手動停止。 原因は、当該制御棒駆動装置内のロープカッタのピストンが正規の位置に取り付けられていなかったことにより、制御駆動用ロープが、磨耗して切れたため。	1
95. 10. 25	関西電力(株) 大飯発電所2号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、高温側の管板拡管部及び管板拡管境界部に有意な指示を発見。	0-
95. 11. 25	東京電力(株) 福島第一原子力発電 所6号機	定格出力で運転中、格納容器床ドレンサンプへのドレン量に増加傾向が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、原子炉給水系の逆止弁の水抜き配管に取り付けられているドレン弁に異物等がかみ込んだことにより、弁座部から漏えいが生じたため。	0+
95. 12. 4	中部電力(株) 浜岡原子力発電所 1号機	定格出力で調整運転中、ドライウェル内ガス冷却装置からの凝縮水に増加傾向が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、原子炉圧力容器ベント配管に取り付けられている第1ベント弁の弁座面が不均一であったこと及び第2ベント弁に異物等がかみ込んだことにより、弁座部から漏えいが生じたため。	0-

表1-2 1995年度原子力発電所におけるトラブルの概要(法律対象)(2/2)

発 生 年 月 日	発 電 所 名	概 要	国際評価 尺度
95. 12. 24	東北電力(株) 女川原子力発電所 2号機	定格出力で運転中、湿分分離加熱器第2段加熱器ドレンタンク(B1)高水位調節弁付近より水の滴下が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、当該弁の製作過程においてボンネットフランジ部のボルトの締め付け力不足があったこと等により漏えいが発生したため。	0-
96. 1. 6	関西電力(株) 高浜発電所1号機	計画出力で運転中、主給水制御弁の弁開度に増加傾向が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、当該弁の製造時に弁棒ねじ部が十分に弁体に接合されていなかったことにより、運転中の振動によるねじ部の摩耗及び応力によって、弁体と弁棒下端との溶接部近傍で疲労破断したため。	0-
96. 1. 14	四国電力(株) 伊方発電所3号機	定期検査のため出力降下中、湿分分離加熱器逃がし弁のうちの一部に損傷が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、当該逃がし弁母管ドレントラップに設計外のものが設置されていたため。	評価 対象外
96. 2. 23	東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電 所6号機	出力27.9万キロワットで試運転中、10台ある冷却材再循環ポンプのうち1台の電源装置に異常が認められたため、原子炉を手動停止。 原因は、当該ポンプに2系列ある電源装置制御回路のうち動作中であった制御回路に異常が発生し、他方の制御回路に切替った際、電源回路のコンデンサーが、十分放電されていなかったことにより過電流が流れ電源装置の保護回路が動作したため。	0-
96. 3. 15	関西電力(株) 高浜発電所2号機	定格出力で運転中、昇圧変圧器の「内部故障リレー」の動作により発電機、タービンがトリップし、原子炉が自動停止。 原因は、定期検査中の1号機の昇圧変圧器の定期検査のために当該変圧器の保護継電器用変流器回路の隔離作業を行った際、作業員が誤って運転中の2号機の回路を隔離したことにより、2号機の「内部故障リレー」が動作したため。	1